

堂津岳登山

2016.10.27 (木) Nさんと

堂津岳は2013年に夏道が出来るまでは、GW期の1週間ほどの残雪時のみしか登れない「信州百名山最難関の山」でした。私は2010年5/2にこの山に登り信州百名山の完登達成をした記念すべき懐かしい山です。単独で初めての雪上登山で緊張しました。スノーシューとアイゼン装着で、山頂はGPSで特定しました。昨年10月下旬に稜線の分岐点まで同じ登山道の東山に登った時に300Mほど登山道の状況を偵察しました。近いうちに登りたいと思っていたので、信州百名山挑戦中のNさんと登りました。

4:30~5:55 奥裾花観光センターP 6:10~6:35 自然園登山口
6:40~7:30 水場 7:40~8:00 中西山・東山方面との分岐 8:05~
8:50 奥西山(1616M)~11:05 堂津岳(信州百名山、1927M、昼食)
11:50~(キノコを採りながら) 14:30 奥西山~15:15 分岐 15:20~
16:10 登山口~16:50 観光センターP 17:00~18:20 大町温泉郷で入
浴・食事~20:20 帰宅。

白馬を過ぎて旧鬼無里村に入ると何と霧雨が降り出す、全くの想定外の天気。昨日は快晴だったので、今日に延期は失敗だった。上だけ雨具を着て歩き出す。自然園までは舗装道路だが一般車は進入禁止だ。紅葉がとても綺麗なブナ林の登山道を登る。

ブナの登山道



藪道に突入



水場で補給して稜線の中西山方面との分岐点へ、中西山方面は最近刈払いした形跡があるが、堂津岳方面は来年との情報で昨年より藪っぽくなっている。雨は止んだが熊笹が濡れているので気が重いが突入開始。時々歩き易くなるが、足元が5~10CMほどに伸びた竹の切り口も無数にあり歩きズライ。テープの印を追いながら、手で笹を掻き分けながら歩くので時間がかかる。

山頂手前のやせ尾根



三角点があり、山名標は無いが所要時間から奥西山山頂に到着。此处からさらに道が薄くなってくるがテープを追えば迷う事は無い。こんな登山道を歩くのは「信州百名山派」がほとんどだろうと推測する。分岐からは高低差の少ないアップダウンの連続で笹さえ生い茂っていなければ快適で時間もかからないだろうが。

山頂の山名標



三角点と高妻山と乙妻山



帰路キノコ（本命はナメコ）を採るので登山道脇で見つけた箇所には印をつけながら歩く。そのため、目が倒木と立ち枯れのブナの木に向いてしまうが足元の笹の切株や進路にも注意しないと怪我や道迷いになってしまう。手で笹を掻き分けなくてははいけないし、神経を使う登山だ。やっと堂津岳が近づくことやせ尾根の登りになるが強風・凍結時以外は注意すれば難所とは言えない。山頂には三角点があり、道もその先ヤブで全く無いし、広く刈り払いされているし、小さな山名標が木に掛かっているの分る。9時以降は快晴の天気予報なのに場所的に雲がかかっている残念な展望であるが、戸隠～高妻～乙妻～地藏山～眼下には小谷・奉納温泉等が望める。登山途中でNさんから聞いたが彼は堂津岳が信州百名山最後の記念すべき登山だった。事前に知っていれば良かったのだが。下山はキノコを採りながらで、時間の関係もあり、往路に印をつけた所だけにする。ナメコは1箇所のみ、クリタケ・チャナメツムタケ・ムキタケ（カタハ）を沢山採る。所がザックが日帰り用の小さな物なので入りきれず、手にぶら下げて持って歩いたが重くて途中でギブアップ。

折角採ったキノコだが2袋を置いてくる。(ムキタケは水気があってとても重いキノコだ) 山菜やキノコの時期の登山は大きめのザックを背負うべきだし、欲で採ってはいけないと反省する。

ムキタケとクリタケの群生

チャナメツムタケ



戸隠西岳

戸隠連峰



登山口～観光センター間からは登った堂津岳や戸隠連峰がクッキリと展望できた。紅葉見物客・登山者にも合わない静かな山行であった。日が短くなってきて、帰路はライトをつけての走行になる。

看板の山々



堂津岳と右は地藏山



紅葉の登山口



途中の奥裾花温泉は 5/5 の火災で温泉は休止中、ユープル木崎湖は木曜日は休館で大町温泉郷でユックリ入浴し、Nさんの信州百名山登頂達成のささやかな食事会をして解散する。

赤沼健治